



文化祭とは「祭」とありますが、ただのお祭りではありません。何をどう表現するか、伝えたいことは何かを明確にしていかなければなりません。学年のテーマ「いま大空へ」は、未来のことを想像することだけではなく、ふり返ってそこにある過去にしっかり目を向けていくことだと思います。学年展示【ヒロシマ162000】は過去をしっかり見つめ、そこから未来に歩を進めようという取り組みであったと思います。

モザイクアートで浮かび上がったのは、被爆直後のヒロシマの町並みです。これを選んだ理由は、2年生では今後、平和学習をすすめていきたいという思いがあるためです。「戦争の悲惨さを知り、平和の尊さを学ぶ」ことは、2年生の文化祭テーマ「あすの大空へ」につながっていくものでもあり、生命尊重の教育につなげたいと考えたからです。わたしたちが未来のことを考え、「明日へ」そして前へ向かおうと思えば思うほど、「近くなる昨日」があるように思うのです。過去は遠い昔にあるのではなく、一歩先のそこに生きているのであって、そこから学ぶことはたくさんあると思います。ヒロシマで犠牲になった人たちが、わたしたちの背中を強く押してくれているものだと思えて疑うことはありません。

このモザイクアートは画素数を162000ピクセル（画素）に設定しました。5mm × 5mmの正方形をヨコに540タテに300ならべることにより、540 × 300 = 162000ピクセル（画素）となります。そして、162000ピクセルを150枚（生徒＋先生）の紙に分割すると、一人あたり1080のマスの色をぬることになります。



では、この162000ピクセルという数字にどういう意味があるのでしょうか。これは広島に原爆が投下されたあと、その年の12月までに亡くなった人の数に匹敵します。つまり、このモザイクアートは162000人もの命によって成り立っているのです。完成したモザイクアートをよく見てください。これほどまでの多くの人たちが、一発の原爆の犠牲になったことを実感してほしいのです。ひとつひとつのピクセル（画素）は一人ひとりの命の数でもあります。そしてあの原爆により、今なお苦しみ亡くなっていく人たちがいます。広島平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑には原爆死没者名簿があり、今年8月6日現在324129名の名前が記録されています。

みなさん一人ひとりの繊細な努力の積み重ねとしてのモザイクアートではありますが、今年はそれ以上に意味のあるモザイクアートになりました。